

## 青少年会館の課題と拠点機能の実証

青少年会館は、県下青少年育成のための活動拠点である。

その実態と機能等について調査すると共に、今後の課題解決と変革を促す資料とする。

提唱及び  
課題 施設管理は、育成事業を展開する物的資産であり、本来の財産は、青少年団体や育成に関わる人と人との絆であり、その絆を有効に相互作用させる機能を拠点から発信することにある。そのために財団は機能する。

これまで地域の青少年育成が機能してきた功績は、長い歴史を抱える青少年団体であり、今日新たに育成団体が起動する背景にも大きな影響とその起点となって来た。そうした基準とも言える団体を育成支援することは、その効果と共に息の長い育成体系を維持し続けることの重要性を持っている。同様に、それらの団体は、新たな団体やその意思を拡大し、時代の健全育成の体系を築くことにも精力的な姿勢で活動を行っている。さらに連携し効果的に育成事業を展開するために青少年団体は財団を設立し、青少年団体が広く地域で関わり影響しあって、県下青少年の育成に資する使命を担っている。

建物が、田町にある必要性に団体や財団は拘ってはいない。県下青少年教育活動の拠点となるための施設として、機能や連携、事業展開等において、現状の施設はそのコンセプトを満たしていると考ええる。

拠点とは、その活動スペースを保有することで、活動の幅や活動自体を支援するばかりか、さらに多くの参画を生むために最低限必要なものである。

ネットワークは、連絡協議の基に事業展開するための連携動作を持つものとして、関連する団体、機関、行政等のネットワークを図るため普遍・継続的ワークショップの構築が必要である。

コーディネートは、青少年団体活動のコーディネートに固守せず、経験や知識等を活かしたコーディネーター集団を築き、関連する事業やこれから社会参加しようとする青少年やその活動に対する助言のほか、広く青少年に関する施策への取組みの要因として機能する必要があることを自覚している。

様々な情報発信、集積のセンター機能を有すると共に、それらの情報を加工し活用性のある資料の提供を伴っていなければならない。

専門的スキル、知識の提供を行える集団としての人材バンク機能を必要とする。

県民主体の自主的活動推進を図るために、若者の夢やニーズをかなえるための場やその支援を有している必要がある。

行政施策の展開の場としての機能に加え、それらを効果的かつ迅速に若者に受け入れられるよう自由な発想で提供できるサービスが必要である。

場力、団体間の相互相乗作用を引き出す環境にあること。

その作用は、人と人とが育むものであり、活動の中から得られた生きた体験を持つ者のコーディネートも必要とされる。

単なる研究機関としてだけでなく、これまでのスキルと実績による研究テーマを施策展開できる組織環境を有し、広く青少年の健全育成に寄与できるものである必要がある。

## 活動拠点に求められるもの

つなげる 人・組織・もの・絆をつなげ、次代に伝えゆく不断の力



**目的** 青少年会館は、県下組織青少年団体・青少年の育成施設であり、一般コミュニティー施設とは異なり、県民の参加をより積極的な主体性を持った参画型社会構造の構築を目指す人づくりにある。

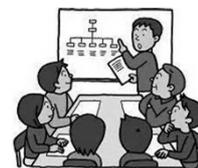
### 人 人と人がつながり創造する社会



青少年団体が、一堂に会しその出会いから繋がり行く  
リーダーや指導者間での共通理解と信頼へとつなげる  
人と人をつなげるためのコーディネーターの存在があること  
団体に周知された聖地であり、長年住み慣れた我が家であるという安心感  
青少年団体が、一堂に入居しており連携が取れやすい。  
役員同士、顔見知りで親しく付き合える環境である。  
コーディネーターの存在があること

### 組織 団体間のつながり

活動する意義と役割の確認  
相互の活動を認め合い連携、切磋琢磨の関係  
宿泊研修も可能である。  
共同体意識の高揚から忌憚ない意見の交換を可能とする



### 行政とのつながり

青少年団体からの提案や要求が調整しやすい  
行政施策の展開を有効に図られ把握しやすい  
地域や民間育成組織の実態に即した機能を展開できる

### もの



団体相互の情報共有のツールやルートができています。  
事務室と会議室、活動の場が一体となっており、無駄なく有効活用できる。  
青少年団体資料の共有化と保管を集中できる  
必要に応じて手伝い、物品の貸し借り、施設・備品の設置等の支援がある。

### 建物 活動拠点 青少年団体が優先して利用できる。

気兼ねなく自由かつ有効利用できている。



様々な活動に対応できる施設

60台分の無料駐車場がある。(利用者の80%は車での来館者)

駐車台数を超えた時には、安倍川河川敷(200m)が無料利用できる

大中小の会議室(12室)があり、分散会等の会議形態でも活用できる。

## 情報



事務処理や職員間の連携協力が得られている。

加盟する者が年齢によって他の団体活動へと移行している。

情報提供とその加工ができ、適材情報と活用性をアップ



pixta.jp - 10164815

## 環境

周辺住民との融和が取れており、相互共助の関係にある

静岡駅からバスでも20分程度で来館できる

安部川、河川敷公園、グラウンドが近く、野外での活動も可能である

東名高速、新東名、1号線バイパスとも利用可能範囲である。

## 現状課題



デメリット

住宅地にあり、主要道路から隠れて見えない

青少年会館のイメージが、利用したことのない人へアピール・周知性がない

近隣に公民館等の施設があり競合する

築35年が経過し、施設設備が老朽化し、維持経費が嵩んできた

目的型利用施設で、青少年がフリーに利用できるスペースとはいえない

日常生活経路としての利用圏になく、何気なく立ち寄りできない

## 利用者の意見

組織育成 指導者育成部はあるが、短期役員・専門職でないので継続性がない。

課題 広い視野と様々な経験や知識が必要である。

ボランティアでは、計画的、継続的、かつ臨機応変な対応ができない。

対応 団体指導経験者等の研究集団が必要である。(研究所の拡充)

青少年団体等のアドバイスや助言を依頼により実施できる機能を持つ。

様々な団体のノウハウや機能を発揮し、県下の青少年育成を図る。

取組 青少年会館事業として、調査研究、支援集団である研究所を再構築する。

各団体は、研究員を推薦し、特命としての事業推進を指示する。

各団体は、大きな連合集団としての研究所を受け入れ、その育成を図ることができるが課題ではある。